

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月24日

【評価実施概要】

事業所番号	272100744		
法人名	社会福祉法人柏友会		
事業所名	グループホーム桑寿園		
所在地 (電話番号)	〒038-3104 青森県つがる市柏桑野木田字若宮255番地1 (電話) 0173-25-2115		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年6月30日	評価確定日	平成21年8月24日

【情報提供票より】(平成21年6月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年 2月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	28 人	常勤	21人, 非常勤 7人, 常勤換算 18.22人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	第1棟 1階建ての1階部分	第2棟 2階建ての1・2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780 円		

(4) 利用者の概要(6月11日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	2 名	要介護2	14 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	63 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川崎胃腸科内科医院・布施病院・平田歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>田園のゆったりした風景の中に立地し、地域の中核的存在である所属法人の特徴に併設されているグループホームである。地域の高齢者に関するほとんどを任せられるなど、法人の役割は大きい。また、敷地内にある畑を地域の方が手伝ってくれるなど、地域住民と関わる機会は多く、開放的な印象を受ける。法人施設に併設していることの利点を生かしながらグループホーム特有の機能を理解し運営されている。入居者との適度な距離感を保ちつつ、しっかり利用者の要望にこたえられるよう職員共通の考えの下支援されているホームである。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で改善課題となっていた「運営推進会議を活かした取り組み」については、即検討され行政担当者に働きかけ参加を約束されている。実際7月7日の運営推進会議は行政担当者も参加した規定どりの会議を予定している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>継続実施できるよう、評価の意義目的は職員一人ひとり共通して理解されており、今回の外部評価に当たっても十分理解したうえで取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>前回唯一取り組みに期待したい項目ではあったが、その後早急な対応により、次回の運営推進会議には市役所職員の関係者も参加できることとなっている。運営推進会議自体は定期的開催され、ケアに反映されている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>家族との信頼関係構築には十分配慮され、日頃から意見や要望は即対応できるように職員間の連携が図られケアに結びついている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域福祉の中核的存在となっている。同敷地内の併設される他事業所との連携・バックアップが万全であり、高齢者やその家族にとっては安心して相談援助を受けることが出来る存在となっている。自由に行き来できる気軽さも兼ね備え、敷地内の畑や周囲のお花の手入れに地域住民の方がボランティアで参加してくれるなど交流は深い。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域性を理解し、そこに暮らす人のニーズに応えられるよう地域密着型サービスとしての役割を盛り込んだグループホーム独自の理念を構築している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有する為に日課としてそこに暮すみんなで(職員、入居者)理念の唱和を行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	念仏講・虫送り・餅つき・神楽、小中学校の行事のお誘いも多く自由に参加できる。また、畑や園芸など一緒にやる機会もある。専門である福祉の相談なども気軽に声を掛けてもらえる存在となっている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	これまでも外部評価を受け、その都度自分たちのホームの取り組みやケアのあり方について十分理解し、改善されている。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を「何故行なうのか」の目的を理解しており、サービス向上に向けた話し合いを持っている。実際、行なわれているサービスの報告はもちろん地域からの情報やホームの評価など、第三者を入れることで活性化されている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	隣接する社会福祉協議会との連携も密で、運営推進会議メンバーに限らず連携が図られている。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際、地域福祉権利擁護事業・成年後見制度を利用されている入居者がおり、その必要性について職員は理解している。また必要であれば手続きから連携・支援も実践できる。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待」についてのリスクや罰則は日々の支援の中で十分理解され、実践されており、今後も起こらないよう防止に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>住み慣れた自宅を離れても安心して生活が継続でき、ホームでの最善のケアが提供できるように、具体的支援内容や要望の聞き取りをし、十分な説明と理解が得られるよう機会を設けている。契約後も支援内容や相談に随時対応し、退居後も次のサービスへスムーズに移行できるように支援している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の定期広報はもちろん、普段の面会においても状況報告をしている。必要であればこれに限らず職員全員で随時電話などで連絡をとり報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置している他、要望や苦情にはすぐ対応が出来る体制がある。普段からの関係作りが重視され、家族からのニーズをケアに反映している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内での異動がある為、その頻度は独立したホームよりは高い。しかし併設されていることで機会があれば普段から行き来しており、顔見知りの関係ではあるためそのストレスは軽減されている。異動や離職は事前にお知らせし、職員間でフォローしている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人において新採用時に施設の概要や理念説明、配属先の事業所で技術や知識を習得する為の実習などカリキュラムが組み込まれ組織的に研修・育成できる環境にある。外部研修はもちろん法人・事業所内での研修も行なわれ積極的に参加できる体制にある。また、研修の復命書も適宜閲覧できるようになっている。</p>		<p>法人内で組み込まれた研修カリキュラムは素晴らしいものがあるが、外部研修などはグループホームの職員全員が平等に参加できるよう配慮されれば、よりサービスの向上に繋がると思われるため今後の取り組みに期待したい。</p>
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国・西北五グループホーム協会に登録されており、研修はもちろん情報収集も早い。また認知症実践者研修・リーダー研修の現場実習施設でもあり、他事業所との交流の機会は非常に多く意見交換の場として活用できている。</p>		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホームの見学はもちろん、入居予定者のニーズに合わせて安心して生活が継続できるように入居前の事前訪問などで関わる機会を設けている。家族からも普段の生活スタイルや性格などを聞き取りサービスに反映している。入居後も他入居者との関係作りに配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>地域で行なわれる行事はもとより、共生できるような関係作りがされている。理念にもあるように「心と心が触れ合う信頼の場」である。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段の生活の中から本人の意向が汲み取れるよう関わり、家族からの意見も参考に、ユニットごとに定期的に会議を設け検討している。</p>		
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>初回の介護計画はもちろん、その後の生活で職員が感じたこと、気づいたことを計画に反映できるように統一した様式を基に随時話し合う機会があり、具体性を持って計画が立案されている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>統一した様式(センター方式)を用いることと、パソコンを利用した日常記録の情報の一元化により定期的な見直しはもちろん、利用者の生活に変化が生じれば適宜計画の見直しが行なわれている。</p>		
<p>3.多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>法人が持つサービスの多様化により柔軟な対応が可能であり、実践している。具体的には併設される特養への入浴(温泉)や墓参りの送迎も利用できる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医受診は基本的に可能であり、状態の変化により必要であれば随時通院の支援も可能である。ユニット毎で通院が重なる場合は時間調整をし、スムーズに受診できるように配慮している。併設される特養とも医療面でバックアップ体制が確立されている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期におけるグループホーム内での対応については随時家族や本人と話し合う機会を設けてる。特養との医療連携の関係もあり、ホームにおいては支援可能である。その都度変化に応じ支援している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いは職員には徹底されている。必要とあれば関係機関への情報伝達はするが、事前に同意書を交わした上でのやり取りにとどめている。日頃の記録や言葉遣いにおいても十分な配慮がされていた。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、あくまでも個別ケアであり、その人にあった支援を実践している。外出や買い物、通院もその一環であるが十分対応されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設特養の献立を参考にホームで毎食調理している。食事の材料もその日に取れた自家菜園の野菜や季節の旬のもので、地域からのおすそ分けなども献立に加え下ごしらえから入居者と一緒に調理している。職員と一緒に食事をし、食後の後片付けも行なっている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入居者全員へ入浴の希望を確認し支援している。拒否がちな方にはチームプレーで促している。入浴を楽しむということで特養の温泉も時々利用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれ役割があり、継続して実践できるように支援している。また、出来ること・出来ないことを見極め、それぞれにあった役割を提供し活躍の場を見出している。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自由に屋外に出ることができる。敷地内に立派な庭園もあり安全に散歩し易い。ちょっとした外出や通院もその都度行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状行われていない。緊急やむをえない場合は管理者他職員から構成される身体拘束廃止委員会が中心となり、家族の同意を得た後最小限にとどめ、記録保存と廃止に向けた対応をしている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は基本的に施錠はしていない。夜間帯は防犯上施錠はしているが特別な鍵は設けていない。一部2階へ上の階段部分は転落防止のため柵が講じられている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全館スプリンクラー、消防設備が完備されている。併設される特養と連携した総合防災訓練も年2回実施されている。合同訓練に限らず、地域自治組織との連携、連絡関係構築されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立案した献立を参考にバランスの取れた食事内容となっている。個々の嗜好にあわせ、量や種類にも配慮されている。基本的には職員が日々の変化を把握しており、必要な水分量や摂取状況は確認されている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	基本的なうがいや手洗いの励行はされている。職員含め入居者や訪問される家族にも気づきやすく扱いやすいような配慮がされている。母体の特養の看護師や管理栄養士からもアドバイスをもらい予防に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>適度な明るさと居心地の良いスペースのとり方に配慮がうかがえる。みんなが集っても窮屈にならず、ある程度距離感を保ち他者と集えるパブリックスペースとなっている。飾りつけなども幼稚にならず、季節感が感じられるような雰囲気作りがされている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個室は十分な広さがあり、一部は夫婦で利用できる造りとなっている。温かみのある落ち着いた色合いで、採光も十分で全室オール電化ということもあり快適である。個室内の設えも自由で、お気に入りの家具や飾りつけは本人・家族と共に行っている。</p>		

 は、重点項目。